

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--------|-------|-----------------|--|----|-------|--------|---------|-------|---------|-------|----------------------|------|
| 科目区分 | 専門教育科目 | 授業科目名 | 子どもの理解と援助 | | | 科目コード | 23Y405 | 担当者 | 小槻 智彩 | | | 担当形態 | 単独 |
| 対象学科・コース | 幼児教育学科 | 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 後期 | 単位数 | 1 | 必修・選択の別 | 選択 | 免許・資格要件 | 保育士必修 | | |
| 授業形態 | 演習 | 履修条件 | | | | | | | | | | 教育職員免許法施行規則に定める科目区分等 | 科目区分 |
| 実務の経験を有する教員担当科目 | | 該当 | 実務の経験内容及び科目との関連 | 公認心理師・臨床発達心理士として自治体の母子保健事業や大学附属心理教育相談室における相談業務に従事した経験に基づき、保育・教育の場における子どもの理解と援助について授業を行う。 | | | | | | | | 科目に含めることが必要な事項 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|--|
| 授業の主題 | 保育・教育の基本である子ども理解の意義や重要性について理解し、乳幼児の発達にあわせながら育ちを支える保育者の基本的姿勢・具体的方法と援助について学ぶ。 | 課題等への対応 (フィードバックの方法等) | ミニッツペーパーに記入された内容や質問を次の授業内で紹介し、コメントや回答を行う。 |
| 授業の方法 | パワーポイントスライドを使用した講義形式を基本とする。受講生には教員が作成した授業資料を配布する。受講生は毎回の授業の最後にミニッツペーパーを提出する。 | アクティブ・ラーニングの実施方法 | 実際の保育の場での子どもの理解や援助を考えるために、一部の授業回において受講生は授業前に各自で事例の検討を行い、その内容に基づいてグループディスカッションを行う。授業内容の振り返りを行うために、毎回の授業の最後にミニッツペーパーを提出する。 |

| 回数 | 授業計画 | 事前・事後学修 | |
|-----|------------------------|--|-----------|
| 第1回 | 子どもの理解の意義と重要性 | 事前：保育・教育の場で子どもを理解する意味について自分の考えをまとめる。 事後：子どもの理解の意義と重要性について要点をまとめる。 | |
| 第2回 | 乳幼児期の子どもの発達過程、生活と遊び | 事前：乳幼児期の発達の特徴について確認する。 事後：乳幼児期の子どもの発達過程、生活と遊びについて要点をまとめる。 | |
| 第3回 | 子どもの理解をするための保育者の基本的姿勢 | 事前：保育者の姿勢について自分の考えをまとめる。 事後：子どもの理解をするための保育者の基本的姿勢について要点をまとめる。 | |
| 第4回 | 子ども理解の方法①：「個」と「集団」の捉え方 | 事前：保育・教育の場における「個」と「集団」について自分の考えをまとめる。 事後：「個」と「集団」の捉え方について要点をまとめる。 | |
| 第5回 | 子ども理解の方法②：観察と記録 | 事前：保育・教育の場における観察と記録の意味について自分の考えをまとめる。 事後：観察と記録について要点をまとめる。 | |
| 第6回 | 子ども理解の方法③：子どもの葛藤やつまずき | 事前：子どもの葛藤やつまずきに関する事例を検討し自分の考えをまとめる。 事後：子どもの葛藤やつまずきについて要点をまとめる。 | |
| 第7回 | 保護者との情報共有 | 事前：保護者と情報共有することの意味について自分の考えをまとめる。 事後：保護者との情報共有について要点をまとめる。 | |
| 第8回 | 特別な配慮が必要な子どもの理解と援助 | 事前：特別な配慮が必要な子どもの事例を検討し自分の考えをまとめる。 事後：特別な配慮が必要な子どもの理解と援助について要点をまとめる。 | |
| | | 事前・事後学修時間 (分/授業1回) | 180分/授業1回 |

| | | | |
|---------------------|--|------------|---|
| 教科書 [書名/著者名/出版社] | 教科書は使用しない。授業ごとに教員が作成した資料を紙媒体または電子ファイルで配布する。 | 受講生へのメッセージ | 子どもを理解しようとすることは保育・教育の基本です。子どもの育ちを支える保育者の基本的姿勢・具体的方法と援助について学びましょう。 |
| 参考書 [書名/著者名/出版社] | 最新保育講座3 子ども理解と援助/高嶋景子・砂上史子・森上史朗/ミネルヴァ書房、シリーズ・知のゆりかご、なぜ?から探る子ども理解と援助/青木 紀久代/株式会社みらい | | |

